

第 11 回小児がん中央機関アドバイザリーボード概要

令和 7 年 3 月 4 日、第 11 回小児がん中央機関アドバイザリーボードが国立医療研究センターにて開催され（ハイブリッド開催）、小児がん中央機関アドバイザリーボード委員、厚生労働省健康局がん・疾病対策課、小児がん中央機関が参加した。（出席者名簿）開会にあたり、国立がん研究センターの中釜斉理事長、国立成育医療研究センターの五十嵐隆理事長より挨拶があった。また、厚生労働省健康局がん・疾病対策課の千葉晶輝課長補佐より挨拶があった。

1. 小児がん中央機関からの報告

① 国立がん研究センターからの報告

松岡豊部長（国立がん研究センターがん対策研究所がん情報提供部）より、国立がん研究センターでの情報提供事業について報告がなされた。（資料 1-1）。

続いて小川千登世科長、（国立がん研究センター小児腫瘍科）より、臨床研究、臨床開発について報告がなされた。（資料 1-2）。

② 国立成育医療研究センターからの報告

松本公一センター長（国立成育医療研究センター小児がんセンター）より、小児がん中央機関としての取り組みについて報告がなされた。（資料 1-3）

2. 小児がん中央機関の行うべき業務

① 小児がん相談・支援事業について

鈴木彩医療社会事業専門員（国立成育医療研究センター医療連携・患者支援センター）より、小児がん相談・支援事業について報告がなされた。

② 小児がん登録事業等について

加藤実穂医長（国立成育医療研究センター小児がんセンター小児がんデータ管理科）より、小児がん登録事業等について報告がなされた。

③ 小児がん医療の診断支援事業について

出口隆生診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンター小児がん免疫診断科）より、造血器腫瘍マーカー中央診断について報告がなされた。（資料 4-1）

続いて、宮寄治診療部長（国立成育医療研究センター放射線診療部）より、中央画像診断について報告がなされた。（資料 4-2）

最後に、義岡孝子統括部長（国立成育医療研究センター病理診断部）より、中央病理診断体制について報告がなされた。（資料 4-3）

④ 部会からの報告

嶋田せつ子看護部長（国立成育医療研究センター看護部）より、看護部会の取り組みについて資料提出された。（資料 5-1）

余谷暢之診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンターがん緩和ケア科）より、緩和ケア部会の取り組みについて報告がなされた。（資料 5-2）

⑤ 医療従事者育成事業について

余谷暢之診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンターがん緩和ケア科）より、今年度の緩和ケアチーム研修について報告がなされた。（資料 6-1）

また、関口昌央医師（国立成育医療研究センター小児がんセンター小児がんゲノム診療科）より、小児がんゲノム研修について報告がなされた。（資料 6-2）

3. 討議事項

① 小児がん連携病院のあり方について

松本公一センター長（国立成育医療研究センター小児がんセンター）より、小児がん連携病院のあり方や新しい選定基準案等について報告された。（資料 7）

② 療養支援専門職について

米田光宏副センター長（国立成育医療研究センター小児がんセンター）より、療養支援専門職の実態について報告がなされた。（資料 8）

③ ドラッグラグ、ドラッグロス対策の進捗状況について

富澤大輔診療部長（国立成育医療研究センター小児がんセンター血液腫瘍科）より、国立成育医療研究センターの試みとして開始した、欧米の小児急性骨髄性白血病研究グループと協働して、急性骨髄性白血病を再発した小児患者を対象とした国際共同医師主導治験について報告がなされた。（資料 9-1）

続いて小川千登世科長、（国立がん研究センター小児腫瘍科）より、ドラッグラグ・ドラッグロス対策の進捗と現在の課題として、医薬品の条件付き承認の取り扱い等について報告がなされた。（資料 9-2）